

北海道稲門教育会会報

2020
1.8
発行

「新年を迎えて」

北海道稲門教育会会長

北海道科学大学高等学校長

橋本 達也



新年あけましておめでとうございます。北海道稲門教育会の会員の皆様におかれましては、益々お元気で、早稲田魂を随所で発揮されていることと存じます。

本会は、今年で四十一年目を迎えます。これまで、本会の立ち上げ、維持、発展にご尽力いただいた諸先輩方の功績に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

八月には恒例の夏期研修会を開催し、北海道医療大学心理学部教授であり、全道の高校も様々な面でお世話になっている富家直明先を

お招きし、「暮らしに生かす認知行動療法」と題して講演を頂きました。早稲田で暮らした学生時代の少し苦い思い出話に始まり、認知行動療法の基本的な知識や今時の高校生の発想に至るまで、様々なお話しを頂きました。「気分は直前の思考を受けて決定される」のであり、「生徒の思考を変えるために何を成せるのか」を考え、「生徒の自罰思考を止めて、援助要請行動を増やさせる」ことの重要性を指摘されていました。同窓であるという力強い絆を生かして、各学校で益々先生のお力を借りてほしいと願っています。大学からは、かねてよりお世話になっている久保田さん（現在は高等学院の事務長になられています）がいらしてくれました。この場をお借りしてお礼申し上げます。大学では、総長が田中愛治先生に代わられ、「世界を舞台とした大学の改革と発展」を目指し、大胆な取り組みが行われているそうです。入試制度の改革、特に推薦制度の多様な拡充も進んでいるようです。早稲田に進学する地方生徒の減少が叫ばれて久しい今日ですが、北海道から稲門に乗り込む、気概のある学生を育てたいものです。

今後とも、世代を超えた同窓のつながりを強めていきたいと願っています。よろしく願います。

「この八年を振り返って」

利尻高等学校長

阿部

稷



今回の寄稿に当たり、執筆の参考とするため過去の会報を検索していたところ、二〇一二年（平成二十四年）の会報で、「この六年を振り返って」という題名で寄稿していた私の文章を見つけました。檜山教育局の高校班主査だった時から八年が経過した今回、その後からこれまでの歩みを振り返ってみたいと思います。

平成二五年、檜山教育局から教育研究所に異動となりました。二度目の道研勤務でしたが、今度は研究・相談部主査という責任ある立場となり苦労しました。一年目は研究担当として、高校教育課とのやりとりに忙殺されたことを思い出します。二年目は相談担当として、生徒指導・学校安全グループと連携し「いじめ未然防止プログラム」の作成に携わり、全道の学校

での活用に役立つことができたのが、大きな思い出です。

平成二七年、道研から新しい高校づくり推進室に異動しました。それまでのいわば受け身とも言える教育局・道研での立場から、道教委の施策を企画・立案し、出先機関等に指示・伝達を行う役割の重さをひしひしと感じたのを、昨日のことにように思い出します。力不足でしたが、個人的には指導主事としての仕事の集大成が図られた気持ちです。

平成二八年、新得高等学校教頭として、一〇年ぶりに学校に戻りました。私に課された任務は大きく三つありました。前年の不祥事を踏まえた地域からの信頼回復、滞りない閉校に向けた業務、新たに開校した新得高等学校との円滑な共存及び引継ぎです。地域からの力強い支援、高校教職員による絶大な協力、高等支援学校との緊密な連携により、充実した三年間を過ごすことができました。

平成三一年、校長採用となり、利尻高等学校に赴任しました。校長室には、第一一代から第五代の歴代校長の写真が飾られており、第一代の坪川校長といった三名の稲門出身の先輩方からの視線も背後に受けながら、仕事をしています。校長の役割に就いて思うのは、最終決定権者という重い責務を担っていること、紛れ

もなく地域におけるキーパーソンの一人であること、そして、教職員や生徒がいかに大切な存在であるかを一層実感することです。離島にある高校という特性は、生徒においても教職員においても、校内外の生活を通し様々な面で、成果や課題となって表れます。できる限り皆の中に入り、日頃の考えや思いを吐露し合い、一緒になって前進して行く、これこそまさに校長冥利だと自分に言い聞かせながら、日々を過ごしている今日この頃です。

「昭和四十七年二月」

北海道高等学校PTA連合会事務局長

井村美彦 (51 教社)



昭和四十七年二月は、日本にとっても、小樽のC高校の3年生であった私にとっても大きなひと月であった。

三日には札幌でアジア発の冬季オリンピックが開幕した。一緒に早稲田に進学したスキー部主将のS君は聖火ランナーとなって小樽の

街を駆け抜けた。六日には七十級ジャンプで日本が金銀銅を独占する奇跡、少なくとも今世紀の間は同じことは起きないだろう。

それより先、二日にはグアム島で発見(保護?)された「最後の日本兵」横井庄一軍曹が帰国した。また、戦争の残滓があったのである。さらに、二年後にはフィリピンのルバン島から小野田寛郎少尉が帰国し「新・最後の日本兵」となった。

そしていよいよ大学受験ツアーが始まった。出鼻から夜の津軽海峡の大シケに痛めつけられた。早稲田と併願の定番の大学を受けた。

当時の早稲田の入試は現在と様相を異にする。問題用紙は冊子ではなく何と風呂敷大の紙に印刷されており、それを受験生は適宜折りたたんで問題に挑んだのである。受験教室は社会の選択科目が同じ地理選択者だけで構成されていた。解答に使う筆記具はペンまたはボールペンであった。英作文の回答欄がぐちゃぐちゃになったのを覚えている。

そして最後の受験日である二月二十八日を迎えた。手応えが十分に感じられない受験が続いただけに心して臨んだ。試験が終わり、早稲田ゼミナールが配っていた解答速報

を鞆にしまい込みラーメン屋に入った。随分と店内の雰囲気が違う。理由がわかった。全員の目がテレビに向かっているのだ。十日前から連

合赤軍に占拠された浅間山荘に、ついに機動隊が突入し、最後に犯人を引き出し連行する場面であった。日本中がテレビに釘付けであったこの日、それとは無縁に、私は英語、国語、地理の試験にひたすら挑んでいたのである。

昭和四十七年二月は、日本ですごいことが続いたひと月であった。特に、私にとって二月二十八日は、早稲田への道筋を得ることができた記念すべき一日となった。

追補

受験で宿泊していたホテルに近い新橋駅前では牛丼を何度か食した。今になってみれば、築地にとどまっていた吉野家が多店化を始めたシンボルである「吉野屋2号店」であったのである。この度、気づいたことは、私は現在の早稲田大学北海道稲門教育会で、最も早く吉野家の牛丼を食した会員としての名誉ある地位を与えられていたことである。

「念願の公務母校訪問」

蘭栄高校 荒谷直

史



母校を卒業して、ちょうど十五年。とうとう念願だった公務での母校訪問の機会に恵まれることとなりました。

事の次第を申し上げると、六月に私が勤務する室蘭栄高校に突然の通知がきました。内容は指定校推薦についてです。これまでなかった指定校推薦枠を今年度から先進理工学部にて新設してくれるとのこと。それにもない七月に担当教員向けの説明会がある旨の連絡も来しました。私はすっかり舞い上がって意気揚々と担当者に立候補し、OBであるということ強調することで説明会が行われる東京の母校訪問の権利を得る、という話の運びとなったわけです。

そして、当日。七月の東京は暑く、三十℃をこえる蒸し暑い一日でした。訪問先は先進理工学部がある旧「大久保キャンパス」。今は「西早稲田キャンパス」と名称が変更され、さらに自分の学生時代にはなかった新しい地下鉄駅と直結しており、時の流れを痛感しました。参加

した説明会自体は二時間程度で終わり、その後に時間にゆとりがあったため、大隈重信像を眺めに本部キャンパスへと歩いていくこととしました。途中、学生時代に酔っ払いながら何度も歩いた戸山公園を横切り、汗をぬぐいながら大隈講堂へとたどり着きました。本部キャンパスのほうは大きな変化はなく、自分が学生生活を過ごしたころそのまま、懐かしさがこみ上げてきました。友人といっしょにベンチで弁当を食べていたことなどを思いだして温かい気持ちにもなりました。最後に、所属していた研究室がある六号館へと足を踏み入れ、ゆっくり様子を眺め、ここに高校教員という立場として来ることができた自分を幸せに感じ、母校をあとにしました。

結局、その指定校推薦枠には授業で教えていた生徒が名乗りを挙げ、いくつかのアドバイスを送ることとなりました。バンカラ魂や在野精神が大事だというアドバイスにその生徒は多少とまどってはいましたが無事に合格が決まり、四月からは晴れて早稲田の後輩となります。荒々しく自主性たっぷりな早稲田っぽい人間になってほしいと願っています。

私自身も早稲田で学んだ日々の中で得たことを胸に刻み、職場でも早稲田魂を存分に発揮していきたいと感じた出来事となりました。

近況報告（返信葉書・メールより・敬称略）

足利 啓朗

薬を4種服用しながら、「健康」で「普通」であることのもの凄さを感じています。当日は別用のため欠席させて頂きます。

阿部 大洋

皆様のご多幸、心よりお祈りいたします。10月から家庭教師始めました。

荒井 到

お世話になっております。せんじつ函館で行われました「早慶合同懇親会」で講演を一席演らせて頂きました。本年度もよろしく願います。

伊藤 芳明

昨年10月に他学年のホームカミングデーに合わせて1・2年次の同窓会と英文科の同窓会に出席しました。懐かしい顔に合うといつも「自分ももっと頑張らねば」と思えるのが嬉しいです。中央図書館の平山郁夫の画には、大きさもありますが感動しますね。

稲富 弘隆

本年も家事都合上出席できず残念ですが、皆様の今年1年もご健康でお過ごしされますよう祈念申し上げます。

大久保 克洋

ほとんど家にじつとしていいることはありません。元気にやっております。盛会を記念しております。

大塚 誠之助

小生、健康には人一倍自信があつたのですが、歳には勝てず、近頃は脚力が著しく衰えてしまいました。しかし、今年も身体の許す限り、趣味の自家菜園（約700坪）と北海道返還要求運動を続けるつもりです。北海道稲門教育会のご発展を祈ります。

大場 宏

稲門教育会の発展と会員皆様のますますのご活躍を祈念申し上げます。北海道の教育の底上げと子供たちの学力向上にご尽力願います。

大東 俊郎（9代会長）

昨年欠席しましたが、今年も体調が十分でないので、欠席します。この処、森鷗外やラッセル・カークの思想の系譜について読んだり、話をさせて貰っています。稲門諸兄のご加護を祈念申し上げます。

大前 末行

卒業して40年あまり経ち、改めて時の流れの早さを感じます。10月末に10数年ぶりに上京する機会がありました。私を高校教師（英語教員）の道に導いてくださった早大恩私宅を訪問。亡き恩師の御仏壇にご焼香させて頂きました。かつて青春時代を過ごした早稲田界隈も

訪れました。大学シンボルである大隈講堂は修復工事中でしたが、隣接する大隈庭園周辺を散策しました。海外からの留学生たちがのんびりと日向ぼっこしている様子が平和で印象的でした。定年退職してはや6年を過ぎようとしています。毎年、稲門教育会の案内をいただき感謝しています。この会の開催にご尽力されている池上暁先生に御礼を申し上げます。会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念すると共に、御盛会を願っております。

岡元 賢

クラーク国際高校（通教）3年目です。

加藤 剛

会の皆様のご多幸を、また会のご盛況をお祈りいたします。

川端 道隆

いつもご案内頂きありがとうございます。私も数年前に職を退き、体調も思わしくなく、欠席とします。ご盛会を祈念します。

吉瀬 献策

高書研の会長に就任してから日程が重複し出席が叶いません。ご實如ください。皆様、ご壮健であられますように。

小島 晶夫（17代会長）

室蘭工業大学2年目となりました。なんとか頑張っております。室蘭よりご盛会をお祈り申し上げます。

坂口 毅

お誘いありがとうございます。明けた3月で退職となり、その後は悠々自適の生活に入ります。今までのお付き合いにお礼申し上げます。長い間ありがとうございます。これからの誘いをご遠慮申し上げますと共に、稲門会の益々のご発展を祈ります。

菅井 秀樹

今年3月31日、旭川北高校を無事に退職（定年37年間）しました。道東オホーツクの興部高校で、単身赴任で教壇に立つております。

菅原 雅之

学校を空けられません。大変申し訳ありません。皆様、健康第1です。知人、友人が大病をするようになりました。私も生活を見直し、酒も控えております。人生100年です。

武部 文吉

皆さまお元気でご活躍のことと存じます。小生元年前から町内会の副会長を務めており、雑多な仕事にとり紛れていますがお陰様でボケることもなく元気に過ごしています。当日、旅行中のため出席できません。ご盛会を祈ります。

田村 潤

総務部長を2年経験し、学校の運営が少しずつ分かるようになりました。

諸先輩の努力に頭が下がります。

これからも本校の更なる発展に、微力を注ぎたいと考えています。

千葉 浩次

新たな職場で2年目を迎えておりますが、苦戦しながらも何とかやっております。会のご盛会と会員の皆様の益々の御健勝とご活躍を祈念申し上げます。

永田 政允

退職20年を迎えます。意識が飛ぶのでしよう。1年間これと言ったことも思い出せなかつて来ています。意欲だけは旺盛なつもりで毎日多忙と思っています。健康、不健康と問われれば、健康なんだろうね。盛会を祈念しています。

成田 智子

返信遅くなり、申し訳ありません。先日、大学時代の後輩（テニス）が同期の宴会の最中だということで電話をくれ、40年以上の時を経て、何人かと話をしました。やはり、いいものだなあと思いました。皆様も楽しいひとときをお過ごしくださいませう。

野村 祥二

ご盛会を祈念しております。

原山 勉（十代会長）

国の舵取りをするお偉いさん達が、平気で虚偽発言を繰り返しています。「美しい国」はど

こへ行つたのでしょうか。大人がこんなことで、教育現場でいくら道徳を説いても説得力がありません。教師達がどんなに苦勞していることか。嘆かわしい時代に突入してきました。少しでもまともな世の中になるよう、次代を担う若者を育てていきたいものです。

平田 裕一

創成高校7年目です。今春で、3回目の卒業担任を終了します。老体に鞭打って頑張っています。やや疲れました。

福川 和彦

今年度も2学年の副担として見学旅行へ同行しました。再び、旅行中に外国人観光客へインタビューをするという課題を生徒に課し、旅行後パワーポイントを活用しながらそのインタビュの模様を報告するという活動を行いました。1学年へも来年度への動機づけとしてプレゼンし、多くを巻き込みながら活動としてポテンシャルを秘めた行事と学校側にも認められつつあります。2校目の今時分ががんばりどころといったところでしょうか。

福田 誠行

今年度をもちまして退会させて頂きます。同窓の皆さんには長い間お世話になり、有難うございました。北海道稲門教育会の益々のご発展

を祈念しております。

前野 文繁

行政に転じて3年が終了しようとしております。生徒であれば集大成の年ですが、まだまだ精進が不足しております。今後ともよろしくお願ひします。

増田 雅彦

いつもお世話になり感謝申し上げます。丁寧なご案内いつもありがとうございます。

さて、本会の出欠について、所用のため出席が叶いませんことお知らせします。

私は現在、札幌丘珠高校で再任用教員として、教壇に立っております。また毎朝、毎夕の下校時校門に立って生徒と挨拶を交わし、部活動はハンドボール部の顧問として元気に勤めております。

ご参加の皆様にもどうぞよろしくお伝えください。それでは、用件までにて失礼します。

よいお年をお迎えください。

増田 康広

十勝芽室から石狩北広島(西の里地区)に移動しました。2年間の十勝生活では、大雪方面から昇る朝日に毎日気持ち洗われながら、何とか責任を果たすことができました。新天地の北広島西では、8間口校が抱

えるこれまでとは異なる課題と向き合っております。目の前の解決すべき課題に正対しつつ、恵庭・支笏方面の山々の遠景を眺めながら、現場の課題とは距離を置いた教育会の趨勢や教育者としての立ち位置などを、たまには思索するよう心がける毎日です。

松田 豊満

高齢となり(87歳)出歩くことが少なくなりました。運動不足です。久しく稲門会に出席できずしております。皆様のご活躍を祈念しております。

宮浦 俊明

古命を迎えました。「七十而従心所欲不踰矩」く高いハードルだと実感する日々です。皆さまのご健康を祈念します。

森 浩之

母校に戻り、2年目になりました。元気に過ごしております。

吉澤 税

長万部での4年目を終えようとしています。会の盛会をお祈りしております。

吉澤 正伸

所用のため欠席させて頂きます、まだ、北翔大で教員養成の仕事をほんの少しだけ続けています。皆さまによりしくお伝えください。

和角 一 (7代会長)

稲門会の益々のご発展とご参会の諸先生のご活躍を心からお祈りします。お陰様で私は健康に恵まれ元気で生活しております。

事務局より

*移動・退職の際には、事務局までご連絡ください。

●ホームページをご利用ください。
<http://tomonkyoikukai.web.fc2.com/>

こちらのURLで早稲田情報の紹介、校友同士の情報交換等を行っていきたくと思いますので、是非ご利用ください。注意点がいくつかございます。

○ブログではありませんので、スクールネットを通して閲覧できますが、無料のホームページアカウントということもあり、検索エンジンに引っかけられないようです(理由はわかりません)。御手数ですが、右のアドレスを直接打ち込んで、ブックマーク登録をしてご利用ください。

○無料のホームページの制約として1メガバイト以上の写真や書類を貼り付ける

ことができません。ものによっては不鮮
明な場合もあるかと思いますが御容赦く
ださい。

問い合わせ、ご要望、転勤による連絡先
の変更等ありましたら、左のアドレスに
メールあるいは白石高校の方にお電話い
ただければ幸いです。

i.akira43@gmail.com